

拠となる資料はあるか。

【答】減額の理由は本件とは異なるが、過去の本市における3つの事例および他の自治体の首長の減額事例を示すことができる。……

分の要件に当てはまらないとはどのような理由か。【答】専決処分要件は、地方自治法上の179条の条文の中で、緊急を要するため議会を招集する時間的余裕がない場合とある。

討論

今定例会最終日に、次のような討論が行われました。

議案第10号

反 対

【無所属】

市長のお膝元の東後楽会館を老朽化に伴い廃止するということだが、なぜなのか。市北部には体育館も無く、西公民館建設も見えてこない。地元市議会議員も一部を除いて賛成し住民のことを考えていないと怒っている。これは福祉の低下、高齢者福祉の切り捨てだ。代案も無い、市長の施策の無さに対して反対する。

議案第14号

反 対

【日本共産党】

改正介護保険法の成立で一部の人の利用料3割と負担限度額引き上げに介護サービスからの自立を促す自立支援介護や介護医療院の創設で中重度患者の難民化の懸念がある。社会保障後退を生む共生型サービス導入は、地域住民が我が事・丸ごと対応することで低コスト効率化へ。今回本市の介護保険料を月100円引き下げるが、今期末の基金は39億円。取り崩しても大幅に残ることからさらなる引き下げは可能。

議案第48号

反 対

【日本共産党】

予算要求で125億円の乖離があり90億円を切り捨てた。生活保護費が削られる一方で、オリンピック関連事業や都市基盤整備に重点が置かれている。格差と貧困が広がる中、中小零細業者や市民を応援する施策が必要。

待機児童は依然解消されず。川越シャトルの無料乗車証の年齢引き上げや東後楽会館の廃止、公民館使用料引き上げなど市民負担増を含む。水害による被災者支援の対応が十分にできていない。

賛 成

【自由民主党】

平成30年度は川合市政となつてから10年目を迎える節目の年であり、将来のまちづくりにおける重要な年と考える。平成30年度一般会計予算は、歳入の根幹をなす市税の増が見込まれるが、歳出

では、扶助費や繰出金などが増加し、予算要求段階では約126億円もの乖離額が生じるなど、大変厳しい予算編成であった。このような状況の中、「未来に向けた投資予算」とのネーミングどおり、本市の将来をしっかりと見据え、さまざまな課題の解決に向けて、積極的に取り組む予算として、高く評価できるものである。

賛 成

【公明党】

平成26年度から5年連続で1100億円超という積極的な予算編成が続くが、その背景には我が国の経済情勢が、緩やかに回復していることがある。過去最大の平成30年度予算では、待機児童対策、教育環境の充実とともに、活力があり災害に強いまちづくりに向けた都市基盤整備に取り組むとしている。東京オリンピック・パラリンピック、市制施行100周年に向け、弾みをつける年度と

位置付け、諸施策の効果的な遂行に期待する。

賛 成

【やまぎき会】

平成30年度予算は、限られた財源を効果的に配分することで本市の課題を先送りすることなく取り組むという考え方により、5年連続で1100億円を超える予算規模となったことは、評価するところである。一方、引き続き平成28年度から増加に転じている公債費、高止まりしている経常収支比率など、財政指数等の動向にも十分留意し、さまざまな重要施策に取り組みことを願い、賛成討論とする。

議案第3号

反 対

【日本共産党】

市長の姿勢を示す人事案件で、市長が出席しない委員会審査になじまないとの議会からの指摘に市長は耳を貸さなかった。市長から職員へ指示がな

く委員会で減額の根拠等は答弁できず、議案提案の手續きに問題がある。議会からの決議には触れず過去の発言と異なる対応を説明する様子もない。乱暴な発言も見られ真摯に反省しているか疑われる。減額前提の予算でなく否決しても市民にも直接の影響はない。

反 対

【無所属】

今回の災害は人災だ。これは被災者の声だ。私たちが一睡もできない中、万歳をし自宅でテレビを見て寝ていたとは。それを不適切と思っていない。報告を受けて被害を知った。こんな市長を本当に許せるのか、反省しているのか。被災者の皆様に市長報酬68万円の減額で済ませようとする態度に反対する。

